

『名古屋の昭和』とおばあちゃん

写真は2015年に樹林舎から刊行された表題の「写真アルバム」から。名古屋の「昭和」を市民などからの写真で綴っている。昭和30年代半ば頃まで少年時代を過ごしたので、懐かしい写真が数多くある。

まずは、毎週通っている鍼灸院隣の「野田酒店」のおばあちゃんに見てもらった写真から紹介したい。鍼灸に行く前に、おばあちゃんに会って、昔のことを聴きながら愛飲している焼酎を買う。もう1年近く火曜日に通い続け、月曜日に行くと「どうして来たのか」と不思議に思われてしまうほどだ。

90歳を超えたおばあちゃん。記憶力がよく、計算もしっかりしている。昨年3カ月ほど入院して、あまり元気がなかった。昔の写真を懐かしんでもらおうとお見せしたのが、この「写真アルバム」だ。

写真上の左は、おばあちゃんが子どもの頃から過ごしていた

名古屋市南区の道德。昔は名古屋有数の商店街だったそう。おばあちゃんから戦時中の空襲などの生々しい話を聴くことができた。その右は、昨年夏にレポートした「観音山」山頂の展望台。いまは取り壊されてしまったが、当時は付近に高い建物もなく、遠くまで見渡せたと書かれている。

写真中は伊勢湾台風の際の港区稲永付近。おばあちゃんは結婚して、このあたりの住宅に住んでいた。なかなか水がひかないので、苦しく困難な生活が続いた。おばあちゃんの「在所」の道德周辺も、山崎川の決壊などにより長い間、水につかった。空襲と災害の記憶は、今でも忘れられないという。

写真下は瑞穂区堀田。稲永から堀田に移り、現在の酒屋さんへと時代が移る。左は昭和21年開館の堀田通りの「堀田劇場」。付近には工場が多く、商店街や飲み屋も繁盛したという。こうした街なかの映画館は、名市大近くの滝子など多くの商店街にあった。写真は昭和31年、「チャンバラ」全盛の頃だ。その右の写真は、「現在の上下町1丁目の空港線と並行に走る南北の通りから南を望む」と記してある。左には炭屋、右には美容院、洋服店などが並ぶ。下坂町の鍼灸院、酒屋さんにも近い。



(2017年1月31日)